

令和3年度 大阪府立泉鳥取高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

2021.6.11

＊コロナの影響で書面にて

出席者:山田良治 様、譜久村菜摘 様、坂上尚大 様、立石和 様、田窪宏年 様、
大久保宏俊 様

議題:令和2年度 諸報告 令和3年度に向けて本校が取り組むべきこと

1. 近況報告を含め各分掌からの報告について

- ・今年度は生徒の人数も少し減少していますが、どの生徒さんも元気よく挨拶してくれて、スカートも制服の変更からちゃんとしていて、高校生活を楽しんでくれているかなと思います。ですがやはり帰宅途中などマナーが悪いことを少し見かける時があるので、注意していかないといけないところかと思っています。
- ・昨年から続くコロナ禍のなか、欠員もあるスタートであったようですが、入学式も挙行され各学年が落ち着いている様子がうかがえうれしく思いました。また、ご報告の中では、クラスマッチやドッジボールでは大いに盛り上がったこと、文化祭では映像作品への取組等、工夫しながら進められたこと等生徒の皆さんの学生生活が楽しいものであるように、支えられた先生方の様々な連携と努力があったと感じました。とともに生活指導を含め、様々な課題を再認識して今年度につなげようとしている点もよくわかりました。
- ・2年度、生活指導はコロナ禍もあり教員先生は非常に大変な年度だったと思います。生徒さんのケア・サポートを含め今年度もよろしくお願いします。近況での80名欠員は少子化や普通科ということもあり、なかなか難しいと思います。何かに特化していかないと。学生ファーストで頑張ってください。

2. 令和3年度学校運営計画についてのご提言・ご感想

- ・学生が楽しく学べる環境づくりを引き続き進めていただけたらと思います。
- ・先が見えない社会で「たくましく生き抜く力」を強く意識して各々の目標が設定されていると感じました。
- ・評価指標の中で先生の「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」75%以上とありましたが、この結果からも先生方の日々の授業を大切にしないと生徒に力をつけたいという思いが感じられます。そして、数値をもっとアップさせようとしている点でその思いがまず生徒や保護者に通じるのではないかと思います。わが園でもより意識して取り組んでいきたいと思います。
- ・魅力ある学校づくりの一つとして、卒業後の進路があげられると考えます。在校生の学校生活へのモチベーションにも影響するし、中学生の進路選択の際には大きな材料ともなる。ご報告にあるいずれの部も大変細かく丁寧な指導・見守りが行われています。「卒業後の進路」(例えば、「いずとりを出たらこんな若者に育つ」など)はいうまでもなく、指定校枠や学校紹介企業枠

の拡大など進路指導部だけの課題や目標ではなく、教務・生徒指導などを含めた学校総体のスローガン・合言葉としてイズトリの魅力になりうるのではないのでしょうか

- ・めざす学校像が素晴らしい。またしっかりと中期的目標もあり、わかりやすい。
- ・前校長により、いろいろなことを提案してくださり有言実行していただいて、子供たちが楽しく過ごしていると思います。高校とは義務教育ではないので、なかなか難しいところがある中で高校生活がどれだけ大切か職員の方々の協力のおかげだと感謝しています。

3. その他(本校に期待されること)

- ・学生自身が日本の課題、地域の課題を把握して解決に向けたアイデアを提案する力を養うために「令和3年度はなんなん共創事業コンペ」との協働を提案します。
- ・質問にもなりますが、ヤングケアラーの存在はどうか。また、コロナ禍で様々な家庭事情があってアルバイトなどに力を入れざるを得ない生徒さんなどいらっしゃいますか。社会情勢が落ち着かない中ではありますが、一人一人の様子を大切にできる学校でお互いありたいですね。先生方もお体に気を付けていただきますようお願いしております。
- ・いずれがこの地域(阪南)のシンボリック的存在になることを期待します。私どもにお手伝いできることがあれば何でもおっしゃってください。

4. 全体的なご意見

予想されたとはいえ、80名の定員割れはやはり残念ですね。コロナ禍による様々な制約が状況の悪化に拍車をかけていますが、そうした困難な状況にも関わらず、生徒指導を含めた教育において大変熱心に頑張っておられることに心から敬意を表します。近況ご報告にもなりますが、大阪観光大学は、来年4月から高校部門を切り離し、1法人1大学という形で再出発します。理事会も新しい体制になりますが、教学組織も教育課程を中心に心機一転の改革を進めています。私は、そのための学術面での根拠として先月『観光を科学する』という本を出版したのですが、教育課程改革において中心的な教育目標として掲げているのが、「楽しむ力」です。もちろん、観光大学であるから「楽しむ」ことは当たり前のように見えますが、実は、観光に限らず、生きていく上で、日本でもっとも遅れている資質の一つが「楽しむ力」であると考えています。これは、御校が掲げられている「生き抜く力」とも重なるスローガンなのですが、「生き抜く」という表現はなんとなく悲壮感を伴い思います。生徒は勉強を楽しむ、クラブ活動を楽しむ、教師は教育を通じて生徒とのコミュニケーションを楽しむというスタンスです。楽しいと感じることができると、子どもたちや若者はもともとエネルギーに充ちているので、もっと主体的に動き始めると思うのですが。「生き抜く力」を前面に出されるとしても、こうした発想を併せて強調されることを私としてはお薦めする次第です。

＊令和3年度学校経営計画を承認していただきました。